下げるには限界があり、最悪は死に至る場合もあ きには重症化している場合

琉球新報　2017年10月10日

ネットワーク

14日、小禄九条の会講座

「社会保障・医療・福祉」に焦点

国政私物化・暴政の極みと批判される突然の国会解散、まさにわが国は重大な岐路に立っています。人類の宝とも称される平和主義、人権規定の進んだ憲法を持つ国で、社会保障分野での後現象が進み生存権が脅かされています。小禄九条の会は「社会保障・医療・福祉」に焦点をあてた憲法講座⑤を14日(土)午後2時開催します。講師は仲西常雄先生(医師・生活と健康を守る会会長)。テーマは「医療・福祉と憲法―現況と展望」。

憲法25条は「すべて国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。国はすべての生活部面について、社会福祉、社会保障およぶ公衆衛生の向上および増進に努めなければならない」と高らかに宣言、国民の享受すべき権利と国の責務を明確にしています。

実態はどうなのか、現場に密着した豊富な資料に基づく現状分析、打開の展望など明快な講義によって主権者力を高めたいと願います。場所は小禄南公民館☎098(917)3444、駐車場が狭いためバスなどをご利用ください。多くの皆さまのご参加を期待します。(受講料無料、資料代300円。事前申し込み不要・直接会場へ)連絡先☎098(857)6718(小禄九条の会事務局、小渡律子)。

大きい

を与える印象操作策を取るドイツは究の質が飛躍的に大学ランキング2対し20校、ノーベ数10位の日本に対等教育の公費負担低水準で私立大学丸投げの状況と言連営交付金も減額いる。目先の戦略や長期的展望の無研究者は「危機的」と表現し、研究センター長は若手研究者が育たないと懸念、「日本の未来を守るため早急な方向転換を」と述べている。

公文書館をよく利用する私としては、特定秘密保護法による公文書公開制限による研究面への負の影響も懸念材料だ。

国際社会の日本政府への警告は研究分野だけではない。政治のあり方について「福島原発の健康被害」では、チェルノブイリ事故の教訓を生かしておらず、低レベル放射線による癌(がん)の発生を指摘した疫学的研究を無視し、健康調査が十分になされていないと国連特別調査官のグローバー氏に警告されている。

「共謀罪」法についてはその広範な適用範囲によりプライバシーに関する権利と表現の自由が過度に制限される可能性があるとして国連特別報告者ジョセフ・ケナタッチ氏が警告している。また、「意見及び表現の自由」の調査を担当する国連特別報告者デービッド・ケイ氏は「日本政府はメディアに圧力をかけている」として、メディアの独立性と国民の知る権利促進のための対策を緊急に講じるよう政府に警告している。日本はいつからこのような国になったのだろうか。

(那覇市、大学教員、63歳)

調設置の意義は十分にあ する場所という観点からも

琉球新報　2017年10月10日

南風

生きている奇跡

東恩納　厚

東恩納組　代表取締役会長

霜降も近く、冷たく爽やかに風が吹く。眺むれば、幾筋もの雨が、竜田姫の織りなす唐紅の山肌を包む。通りに出ずれば、山吹の銀杏(いちょう)の葉が舞い落ち秋である。

我(わ)が人生も秋である。

嘗(かつ)て大宰に気触(かぶ)れ、落ちて行くことに陶酔し無為に過ごした。葉蔵に自身を重ね、生きる理由を探した。

医師になろうと決めた時から、勉強に集中し苦しみより解き放たれた。

今の私は、生きることに理由を求めず、生きている奇跡の日々に感謝し、仁を以(もっ)て他人に接し、ついに逝く日を覚悟している。

今やることは、より善き会社にして大きな利益を出し、社員と協力会社とその家族を物心ともに幸福にすることである。

より善き会社とは、人や社会に必要とされ応えることのできる会社である。

2011年に会社の経営に関わり、赤字を黒字に変えることは容易であった。元より稼げる会社であり、販管費を削減しただけである。

私は、弊社の過去10年を、Missing link(失われた環)に例えている。その間に多くが失われた。

一般に企業の経営資源は、ヒト、モノ、カネ、情報、知恵、技術、強み(core competence)と言われている。

私は、感性と創造性を加えているが、一番の財産が、ヒトであることに論を俟(ま)たない。

先(ま)ず、優秀で良質な人材の維持と確保を優先した。また、将来に向けて毎年の新入社員を受け入れ、その育成を行っていく。

そして私は、失った情熱とモチベーションを再び社員に懐(いだ)かせる為に、日々社員に語り掛けている。

まだまだ、やるべき多くのことがある。

人は城
人は石垣
人は堀
情けは味方
仇は敵なり

信玄

投稿規定　声・ネットワーク400字、論壇1000字、ティータイム600字。住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記。〒900―8525　那覇市天久905。原稿は琉球新報社オピニオン係に郵送。ファクス098(865)5234、メールkoe@ryukyushimpo.co.jp　問い合わせは同係☎098(865)5175。他紙との二重投稿は厳禁。掲載の可否についての問い合わせには応じかねます。「うそっぱち」は社会部ファクス098(865)5222。